別紙様式2 （中等）

2020年度 智学館中等教育学校自己評価表

目指す学校像	人間の尊厳を大切にし 世界的な視野で考え行動できる人材を育てる		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
次期学習指導要領を先取りした「探究学習」や「英語教育」の推進，学力差を意識した習熟度別授業の展開，6年間の研修旅行計画に基づいた研修旅行の段階的な変更，ノートパソコン導入整備に向けた教員研修，生徒会を中心とした自主的活動の支援，各種ボランティア活動に参加する生徒への支援など多種多様な教育活動を計画し実施出来たことは大きな成果であるが，入学者増に向けた生徒募集の強化という点では課題が残る。	学力の向上・進路実績の向上	・前期課程の学力向上に力を入れ、早い段階でやる気と自信を身につけさせ、成功体験につなげる。 ・生徒一人一人の学力が今よりも確実に向上するよう、きめ細やかな指導を行う。 ・探究学習・ICT教育の充実を図り、論理的思考力や国際的指標に基づいた読解力を育成する。 ・新しい高大接続のあり方を踏まえ、各教科および各授業担当者が生徒一人ひとりに見合った指導を実践する。	B
	生徒募集の強化	・昨年度の入試制度に基づき、適性型入試受験者数100名以上、入学者数40名以上を目指す。 ・今までの固定観念にとらわれず、幅広い層の受験生を確保する。 ・志願者、入学者ともに、学ぶ意欲の高い受験生を確保する。 ・学習塾との関係を強化する。	C
	教職員の質の向上	・経営計画に則った業務を行う。 ・教職員一人ひとりが自分の仕事におけるスキルを高める。	B
	法人内学校との連携	・常磐大学、常磐短期大学・常磐大学高校との連携を強化し、協力体制を確立する。	B
	生徒指導の強化	・全教員が同じ視点・共通認識を持って、生徒指導を行う。 ・公共の場でのマナーを守ることの大切さを生徒に理解させる。	A
	地域連携の強化	・校外で開催される各種行事やイベントに、ボランティアなどとして積極的に参加し、地域との連携を図る。	C

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
学年	1年次	基本的生活習慣の確立	学校生活に慣れさせ，集団生活のマナーやルールの理解・遵守を図る。	B	A	挨拶等、基本的生活習慣への意識の徹底
			パーソナルレコードを通して自己の生活を振り返らせ，適切な時間の活用を意識させる。	B		自己実現を見据えた自己管理の大切さの自覚。日々の生活記録の徹底。
		互いを認め合い思いやる心の育成	互いの価値観を認め合い，自他ともに尊重し合う態度を育む。	B		行事等を通じた、他者を理解し尊重する態度の育成。
			クラスの一員であることを自覚させ，係や委員会などの役割に責任を持つ意識を養う。	A		責任感をもち自己肯定感を高める取り組みの継続
		将来の夢や目標に向けた主体的な学び	主体的な学習習慣と態度を確立させ，各教科の知識を身につけさせる。	B		自ら思考し課題解決に向かう意識を向上させる指導
			学びを通して夢や目標を持たせ，将来像や職業観の意識づけを図る。	A		自ら思考し課題解決に向かう意識の向上
		HRにおける自己意識の育成	PBLや行事などの活動を通して，協力や団結することの大切さを学ばせる。	A		**目標を持ち創意工夫して積極的に活動させる**
			個に応じた達成感と自己肯定感を育成する。	A		**短期目標達成の成功体験を継続して積ませる**
	2年次	基本的生活習慣の涵養	学校や社会のルール，公共のマナー，挨拶の大切さを認識し，行動させる。	A	B	社会における挨拶やマナーの重要性を継続して学ばせる
			適切な時間の管理や情報を記録させ，振り返りをさせる。	A		適切な時間の自己管理が目標達成のために欠かせないことを意識させる
		互いを認め合い協力して挑戦し続ける心の育成	学校行事やクラスの行事において主体的に企画・実行できる力を育成する。	A		具体的に何をどうすれば達成できるのかを考えさせる
			課題解決の為に，互いの意見を尊重させ，自ら考えて行動させる。	B		他者との距離感や違いを認め合う姿勢を持たせる
		主体的学習習慣の確立	主体的な学習習慣・態度を確立させ，知識を深め定着させる。	B		模試や定期試験だけでなく，毎日の積み重ねの重要性を意識させる　検定試験の取り組みを意識させる
			短期・長期の目標を定め，達成感や振り返りを行い学力をつけさせる。	B		振り返りをもとに課題意識を持たせ，自分の成長が感じられるよう導く
		探究心と進路に対する意識の高揚	総合的学習の時間や行事などの活動を通して，興味・関心のある分野の探究心を育成する。	A		不思議さ・疑問点の解明のために考えさせる
			学びを通して将来の進路に対する意識や職業観を持たせる。	B		面談を通じて将来像を意識をさせる

3年次	基本的生活・学習習慣の確立	パーソナルレコードを活用し,時間の管理を行い,自己の内面を省みることで生活を充実させる。	A	B	生徒自身が自ら行動の改善点に気づき,向上する意識を持たせる
		後期課程への進級に向けて 主体的な学習態度を養い,基礎学力の定着と知識の習得に努めさせ,発展的学力に繋げる。	A		積み重ねと到達するまでの過程の大切さを意識させる
	互いを尊重し行動する自主性の育成	互いを認め意見を尊重しながら,リーダーの素養と個々が主体的に考えて行動できる力を養う。	A		一方的な批判的視点ではなく,多方向からの視点で考えさせる
		学校行事において,協調性や信頼関係を重んじる意識を持ち,課題解決に繋げる意識を持たせる。	B		話合い・コミュニケーションを大切にし,協働させる
	学びの中での探究心の育成	興味・関心のある分野や事柄について,主体的に追究し学びを深めさせ地球規模で物事を思考する意識を持たせる。	B		多岐にわたる情報やICTを有効に活用させる
		自己の主張を論理的にまとめプレゼンテーションする力と,他者とコミュニケーションをとり有意義な情報交換を行う積極的な態度を育成する。	B		ディベートなど,継続的に多様性を尊重する場を設ける
	将来の目標を見据えた取組み	インターンシップを通じて勤労の大切さや社会の一員としての生き方を学ばせると共に,自己の進路や適性など,具体的な職業観を培う。	A		社会の一員として生きていくことを自覚させる
		国内研修旅行において日本文化を理解し,計画を遂行して責任ある行動について考えさせ,人間的成長を図る。	B		自国文化に対する理解を深め,知識,教養を身につけさせる
4年次	基本的学習習慣の確立	模試の事前指導・事後指導を徹底し，家庭学習を定着させる。	B	A	HRや授業での指導を徹底し啓発する
		パーソナルレコードを活用し，規則正しい生活を徹底させる。	B		手帳を有効活用し，自己分析を徹底する
	将来像の確立と進路選択	文理選択を見据えた進路指導を充実させる。	A		社会の一員として生きていくことを自覚させる
		講演会への参加や資料の熟読を通じ，進路意識の向上と具体化を図る。	A		探究学習と連携し，探究スパイラルにのっとって自己実現をはかる。
	人間関係の確立	学校行事やHR等においてコミュニケーション能力の向上を図る。	A		意見を出しやすい環境・雰囲気をクラスリーダー等が作り出せるよう，ファシリテーション技術を高める。
		心身の健康に気を配り，良好な対人関係を構築させる。	A		バランスの取れた食事や睡眠について指導する。
	社会性の育成	課題解決の為に，互いの意見や価値観を尊重させ，自ら考えて行動させる。	A		様々な事例をもとに，多様な価値観がよい解決策につながることを学ぶ。
		生徒会活動や部活動等で活躍する機会を増やし，リーダーシップの育成を図る。	B		リーダーは司会者ではなく，決断することが最大の役割であることを理解する。

	5年次	基本的生活習慣の涵養	自分自身を振り返り，自立心を育成する。	B	A	SHRやPBLを通して，ふり返りの機会を作る。また、コロナ禍の影響を考慮し,前向きに行動できるようにする。
			後期課程の中心としての意識を高めさせる。	A		集団の力を高め，相互に協力していく。
		周囲との協力的態度の育成	学校行事や特別活動を通して，リーダーシップや組織の運営について，実践的な態度を学ぶ。	A		5年次生としての自覚を持ち，後期課程生と協力する。クラスの一員としての意識を持ち，ともに学び合う姿勢をもつ。
		学習習慣の確立と進路への展望	1日の学習習慣や，長期的な展望に立った学習方法を確立していく。	B		逆算して自分の今を意識させる。
			面談や進路講演会を通して，次年度の進路への意識を高める。	A		大学訪問や進路情報誌等から情報を集め,自ら行動を起こすように促す。
		社会的存在としての自己の確立	卒業後の進路を踏まえ，社会の一員としての自覚を意識させる。	B		集団の一員としての自分の役割と，自己の目標実現への取組とを区別させる。
	6年次	基本的生活・学習習慣の確立	けじめのある規則正しい生活を確立させる 挨拶の励行を繰り返し伝える	A	A	コロナ禍の影響を考慮し，保護者との連携を密にする
			パーソナルレコードを活用し，計画的・継続的な学習を意識させる 生活のリズムを確認する	B		生活のリズムを確認し，生徒の心身の状態を把握することに努める
		目的意識を持った進路の実現	将来の職業や生徒の希望に沿った進路指導を行う 適宜面談を実施し，フォローアップに努める	A		進学意欲を引き出す工夫と受験指導力の向上
			生徒の志望する大学や学部・学科に応じた適切な受験指導を行う 年次のみならず，各教科との連携を図り生徒の学習支援に努める	A		多様な問題に対応できるような学習と意識付けの機会を増やす
		社会を意識した自己の確立	集団における自らの役割を理解し，リーダーシップと協調性を育成する	B		集団の一員として，自覚と責任感を高める指導の継続
			他者の意見を尊重し，自らの意見を堂々と述べられる態度を養う	A		HRや学教行事を通して，ひとりひとりが考える機会を増やす
			最上級生としての自覚を持たせ，自律した態度を身につけさせる	A		下級生の模範となるよう，上級生としての自覚を促す
			自分で考え，率先して行動できる積極性・自発性を伸長する	A		発言や行動に対して，それに伴う責任感を意識させる

	教務	探究学習の充実	1，2年次よりPBLに基づく探究学習を展開する。	A	B	各自のプレゼン能力向上を目指す。
			SDGs、ユネスコスクールを意識した取組を推進する。	A		1～5年次の探究学習を有機的につなげる。
		学力向上の追求	4学期制による短期間での学習評価を行う。	B		高学力層をさらに引き上げ、低学力層の底上げを目指す。
			習熟度別授業や放課後ゼミを通して学力向上を図る。	B		高学力層をさらに引き上げ、低学力層の底上げを目指す。
		6年間を見通した教育の確立	シラバスを通して進路実績向上を図る。	C		2020年度は年度当初の臨時休業のためシラバスを作成せず。
			新教育指導要領に基づく教育課程を編成する。	B		2021年夏を目途に新教育課程を確定する。
		授業力の向上	授業改善、授業力向上のために、毎学期末に授業アンケートを実施する。	A		多くの教員がアンケートを見られるようにする。
			研究授業を年に2回（新任者、経験者対象）を行う。	A		より体系的な運用を目指す。
		ICT教育の推進	1，4年次の全生徒にChromebookを持たせ、授業に活用する。	A		2021年度は1～5年次の全生徒にChromebookを持たせる予定。
			臨時休業中や出席停止の生徒に対してオンライン授業を実践する。	A		ICTを学習以外の用途へ応用することを検討する。

校	進路	6年間を見通したキャリア教育プランの確立	インターンシップ（職場体験）の意欲的な参加を促すため，生徒の進路希望や適性に応じた業種・事業所を紹介する。	C	C	将来の職業に結びつくような職場体験の実施
			「書いて考える進路」「進路サポート」等を活用して，生徒の興味や関心から職業適性を探る。	B		自分の職業適性から、進学先や学部・学科を検討させる
		学習活動の支援	夏季休業を利用して学習合宿を開催する。	C		自発的・主体的な学習への取り組み
			学力向上・受験対策を目的とした課外ゼミや夏季ゼミ，冬季ゼミを実施する。	C		実効性のある、充実したゼミの開講
		進路情報の提供	定期的に『Forge Ahead』を発行して，大学入試に関する情報提供を行う。	B		生徒・保護者に向けて、タイムリーな情報提供を行う
			各年次に応じた進路講演会や進路ガイダンスを開催する。	B		早い時期からの大学進学に対する意識の啓発
		高大接続による学習活動や進路支援	大学教員を招いての大学模擬授業を実施する。	C		学問への興味・関心を引き出すような授業の実施
			大学教員による面接・マナー講座や模擬面接を実施する。	C		多様化する大学入試に応じた受験指導
	生徒	基本的な生活習慣の確立とマナーや振る舞いの向上	自然に挨拶ができるような働きかけをしていく	C	B	生徒会と連携する
			集会や式典における自己指導力の向上	A		自動化への取組を継続する
			スマホ・SNSの校内での適切な使用方法の確立	B		注意喚起の機会をふやす
			スマホ・SNSについて，外部講師からの助言を通して意識を向上させる	B		外部業者との連携を図る
			スマホ・SNSの適切な使用への自己指導力の向上	B		全校集会を利用していく
			公共交通機関での安全かつ適切な振る舞いの浸透	B		交通安全委員会の活用
		交通安全への理解と適切な行動力の向上	自転車通行路の適切な利用と運転マナーの向上	B		交通安全委員会の活用
			交通安全教室を通して，自己を客観視できる視野の育成	A		外部業者との連携を図る
		生徒指導における教員の資質向上	学校行事等における通信機器の適切な利用方法の共通理解を深める	B		注意喚起と事前研修の実施
			教員の問題解決力の向上	A		年次主体の解決を図っていく

務分掌	特活	学校行事の定番化	智学館カップの活性化・応援団活動の活発化	C	B	コロナ禍を念頭に置いた行事運営
		委員会活動における生徒の自主的活動の支援	生徒の主体的取り組みを取り入れた活動の支援 各委員会における対外活動の活発化	A		更なる主体的取り組みの活発化 生徒会役員との連携
		部活動の活性化	部活動やクラブ活動の活動率の引き上げ 新型コロナウィルス対策を行う環境づくりの徹底	A		練習計画書における部活動の把握 各部活動におけるウィルス対策の把握
		ボランティア活動の支援	地域のボランティア活動への積極参加の支援	C		常磐大学や常磐大学高校、地域との連携とボランティア活動への積極的な参加支援
		生徒会活動の自主的活動の支援	生徒会活動の自主的活動への支援	A		Instagram,Tiktokを用いた広報活動の活発化
			生徒総会を中心とした学校組織の仕組み作り	B		生徒総会の活性化を図る
		HRの活動計画の深化	1年間を通したHR運営方法の確立	B		人間育成・リーダー教育のためのHR計画
			教員間の情報共有と主任、担任、副担任の連携	A		計画・反省を中心とした前年度の見直し
	保健	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	学校保健計画に基づき，諸検査・安全点検を実施する。	A	A	諸検査，点検の実施を継続する
			避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては，地域との連携を図る。	A		教務との連携を密にし，年に2回の実施を継続する
		生徒の健康課題を把握し，健康教育の充実を図る。	学校保健計画に基づき，健康診断を実施し，担任や保護者と連携して対応する。	A		保護者との連携を密にし，健康教育の充実を図る
			保健だよりの発行や講演会を通じて，生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	A		毎月の保健だより発行を継続し，講演会の充実を図る
			保健室の円滑な運営・管理に努める。	A		円滑な保健室経営を継続する
			コロナやインフルエンザ等の感染症について，学校医等の協力を得て，流行の防止に努める。手洗い・うがいの徹底を図り，コロナ感染を防ぐ。	A		保健委員会を十分に活用し，生徒の予防意識を高める
		心の問題の早期発見・対応に努める。	カウンセリングにおいて，スクールカウンセラーと担任間の連絡調整を支援する。	A		カウンセラーと担任間の円滑な連絡調整を継続する
			要配慮生徒について，担任，スクールカウンセラーと連携を図る。	A		情報共有を密にし連携を図る
		心身共に健康な生活送れるよう食育に関する意識啓発を行う。	食に関して関心を持てる環境づくりに努める。	B		給食における食育を検討する
			食育に関する情報の発信と意識の啓発を行う。	B		保健だよりだけでなく保健委員会でも啓発活動を行う

広報	広報誌等の発行による広報活動	パンフレット・ポスター・各種イベントのチラシ等の作成を通して新しい受験者層の開拓に努める。	C	B	受験者・保護者層のニーズに合わせた広告媒体・手法の再検討
	広報イベントによる広報活動	学校見学会・オープンスクール・天体観測会・入試説明会等の広報イベントを通して、広く地域に学校を紹介できるように努める。実施に当たっては在校生との交流し、生徒達の実生活を知ることが出来るように意識し、生の声を通して本校を知り、評価できる機会となるように努める。	B		参加者がより楽しめ、高い満足度が得られるイベント運営の工夫 イベント参加者の実人数増と広報活動の効率化の為の活動計画の再考
	小学校や塾への訪問を通した広報活動	水戸地区を中心に小学校や塾を訪問する。その他の県内小学校や塾に対して、郵送による刊行物配布を実施する。	B		対象地域の絞り込みを含めた塾や小学校訪問の効果的かつ合理的なあり方の検討
	ICT機器活用による広報活動の実施	ホームページ、フェイスブック、LINE、インスタグラムを継続して活用すると共に、校外説明会における資料請求アンケートや学校等訪問のウェブを利用した記録を実施する。	B		情報配信ポリシーの明確化、業務効率化の為に有用なツールの検討及び導入

教科	国語	基礎的な学力の定着	日々の予習・復習等の学習習慣を身に付けさせる。	C	B	知識の定着度・理解度の確認
			生徒の学力に応じた適切な学習指導を行う。	B		ゼミや補講による学習指導の継続
		語彙力・表現力の向上	文章表現や討論等を通して実際に活用できる力を養う。	B		漢字力・語彙力の強化
			各年次に合わせた課題設定・添削指導を行うことで，文章表現力を向上させる。	B		小論文の添削指導や個別指導の継続
		読解力・論理力・思考力の育成	文書を的確に把握し，内容や論旨を正しく読み取る力を身に付けさせる。	B		現代社会の諸問題に関する知識の獲得
			説明的な文章を読んで，筆者の意見に対する検証・批判を行わせる。	B		評論・意見文等の読解力の強化
		鋭敏な言語感覚と芸術的感性の錬磨	文学的文章における場面や登場人物，時代背景等を読み取り，イメージを喚起する力を養う。	B		豊かな想像力の涵養
			詩・短歌・俳句の鑑賞および創作を通して，言語感覚を磨いていく。	A		各種コンクール等への出品・応募
		情報分析力と判断力・洞察力の錬成	学校図書館・ICTを活用して，自ら資料を収集・分析し，考察・検証する力を養う。	B		資料の収集・活用に関する指導
			情報を有効・適切に活用し，自らの考えをまとめ、発表する力を身に付ける。	B		表現力・プレゼンテーション能力の強化
	数学	基礎学力の定着	定期的な課題によって，家庭学習を充実させることで学習習慣を身に付けさせる。	B	B	他教科との連携，継続した指導を徹底する。意欲的に学習できるように工夫する。
			定期的な小テスト・単元テストによって学力の定着を確認する。	A		自身の定着度合いを確認させ，自発的な復習を促す。
		個に応じた学習指導の充実	習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	B		放課後のゼミや補習授業を，より一層充実させる。
			考える力や表現する力を養う。	B		授業や定期テストで扱う問題の精査。授業の進行方法の工夫。
		教員の教科指導の向上	教科内で，互いの授業方法について相談や意見交換を密にする。	A		教科会での意見交換や授業見学の機会を増やす。
			様々な研修に積極的に参加し，その情報や成果を教科内で共有する。	B		他校での研修会や公開授業，教科外の研修などにも積極的に参加する。

社会	6年間を見据えた系統的な指導の確立	ステージごとの到達目標を再検討し、ステージ間の連関を強化する。	B	A	3年次社会科 公民的分野と4年次現代社会との有機的な接続を研究する。
		多様な進路希望に対応できる科目選択のあり方について研究する。	A		2022年度からの新科目導入を踏まえて、適切なカリキュラムのあり方を研究する。
	実社会とのつながりを意識できる学習法の開発・実践	実社会の諸問題を体験的に学び考えるため、活動的な実践を積み重ねる。	B		探究学習との関連を持たせ、課題発見・解決型のフィールドワークを検討する。
		資料読解の機会を多く設け、社会的諸問題を発見させる。	B		意見や知識を要約し、共有・発表するスキル向上をめざす。
	主体的・対話的な学びを実現する指導法の工夫・改善	本年より1・4年次で導入されたICT機器を用いて、アクティブラーニング型の学びのスタイルや学習課題、発問技法について研究を深める。	A		ICTを用いた授業技法について教科内で研修を行う。
		先人との対話という点を重視し、学習課題に応じた適切な史料等を選定する。	A		生徒に考えさせたいことや習得させたい力を踏まえ、適切な資史料を選定する。
理科	科学的・論理的思考の育成	「観察」・「仮説」・「実験」・「考察」のプロセスを踏まえ実験や観察を行う。	B	B	仮説や検証方法を考える時間を確保する。
		実験や観察を通して得た知識と経験を用いて，レポートや研究論文を作成させる。	B		レポート・論文を作成するための，手順を体系的に身に着けさせる。
	探究力の育成	実験や観察から「発見する」プロセスを大事にした授業を行う。	B		授業最後に疑問・質問を作らせる 。
		生徒一人一人の興味関心を深められるよう支援して，自ら探究学習に取り組める基礎を育成する。	B		授業で得た知識を探究学習にに活用する。
	理科の言語化	授業中の実験におけるレポート作成を通して，論理的な文章の作成法や，研究論文の書き方を身につけさせる。	B		論理的な考察を書くための技術向上のための時間を設ける。
		研究発表会などを通して，自身の研究成果をポスターやプレゼンテーションで表現する能力を育成する。	B		学校外においても，発表の場を探し，表現する機会を増やす。

英語	基礎的な英語力とコミュニケーション力の育成	4技能のバランスがとれた言語活動を実施する。	B	B	「読む」「話す」の活動を多く取り入れる
		知識を実践で運用できるよう，場面設定や教材はできるだけ実際的なものにする。	B		実際に使われる英語を素材として使うようにする
	基本的な学習習慣の確立	定期的に小テストを実施したり，課題を与えたりして，自学自習，家庭学習の習慣を身につけさせる。	B		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
		外部資格・検定試験の受験を促し，自身の英語力向上のために目標を持って学習に取り組ませる。	B		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう
	英語を用いて積極的に行動する態度の育成	幅広い話題について，情報や考えなどを整理して発表したり，話し合ったりする。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
		調べ学習をさせたり，補助教材を利用したりして，異文化理解を深める。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする
	英語を運用する機会の充実	English Dayやその他授業内外の活動を通して英語でコミュニケーションを図る機会を設ける。	A		オンライン英会話学習でコミュニケーションを行う実践の機会を設ける
		海外の訪問者と交流する機会をできるだけ多く設ける。	B		コロナ禍では，オンラインでの交流機会を設ける
	研修機会の充実	授業担当者がそれぞれの授業について，情報を共有し，指導の工夫や改善の参考にする。	B		他の教員の授業を積極的に見学する
		外部の研修会等に積極的に参加する。	B		教員一人ひとりが努力する

	保体	保健学習の充実と知識を活用する学習活動の取り入れ	心身の発達と心の健康について理解させる。	B	B	学んだ内容に強い興味を持たせるために，感染症対策をした上で発表や話し合いの場を設ける。 見る，聞く，話す，感じる，考えることでより深い理解につなげる。
			健康と環境，傷害の防止について理解させる。	B		
			健康な生活と病気の予防について理解させる。	A		
			ブレインストーミング，実習，ICTを活用した学習などを取り入れる。	B		
		基礎体力を高め，心身の調和的発達を図る	授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	B		各種目に応じた補強運動を取り入れ，基礎体力を高めていけるよう，時期や活動などの工夫を増やす。
			体つくり運動や持久走の授業で効果的な体力向上の実践を行う。	B		
		運動を豊かに実践することができるようにすることとコミュニケーション能力の育成	運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	B		基礎的技能習得の機会を設けるために，個人で練習課題を考えるワークシートなどの導入を増やす。ICTを活用した授業・視覚的な授業の充実を図る。
			基礎的な運動技能を習得させる。	B		
			ルールを理解させる。	B		
			練習や作戦，課題解決の方法の確認を話し合う機会を設ける。	B		
		決まりを守り，互いに協力し合う態度を養う	規律ある行動をとり，マナーやルールを遵守する。	A		選手を取り巻く環境（対戦相手や観客など）や，精神面（心）を読み解く力をつける為に，体育理論や道徳授業の中で考えさせ，またその時期を検討する。
			フェアプレー精神を尊守する。	B		

※評価基準　A：十分達成できている　B：達成できている　C：概ね達成できている　D：不十分である　E：できていない